

「接続料の算定等に関する研究会(第85回)」 ヒアリング資料 (モバイル接続料の検証について)

2024年5月20日

株式会社NTTドコモ

あなたと世界を変えていく。

^{NTT}
docomo

1

5G(SA方式)に係る費用及び需要の扱い

2

予測値算定方法精緻化及びMVNOへの情報開示

3

需要の適正性確保

4

各論点に対する当社意見

1

5G(SA方式)に係る費用及び需要の扱い

2

予測値算定方法精緻化及びMVNOへの情報開示

3

需要の適正性確保

4

各論点に対する当社意見

接続料算定における5G(SA方式)に係る費用及び需要の扱い

- 当社は、音声接続料及びデータ接続料について、4G・5G(NSA方式)及び5G(SA方式)を一体として算定

構成員限り

音声接続料

構成員限り

データ接続料

構成員限り

5G(SA方式)の利用及び提供状況

- 4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)は、一般的な利用者のユーザ体感に大きな差異はなく、利用者から見たサービスの連続性がある
- 当社における5G(SA方式)は、十分なエリア整備には至っておらず、スライシング等の5G(SA方式)ならではのサービスも現時点では未提供

● 4G・5G(NSA方式)から5G(SA方式)へのシフト

サービスの連続性

- ✓ 利用者から見て4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)に連続性がある

設備の態様

- ✓ アクセス網及びコアネットワーク等、基本的なネットワーク構成に差異はない

構成員限り

【参考】5G(SA方式)のMVNOへの機能開放

- MVNOに対しては、L3接続相当を機能開放しており、L2接続相当についても事業者間協議を継続しているところ

L3接続相当

- ✓ 2022年8月にMVNOへ機能開放
- ✓ 一体算定による低廉な接続料水準

構成員限り

L2接続相当

- ✓ 3月に確定した標準化動向を踏まえ、要求仕様の確定に向け継続協議

接続料算定に関する過去の整理

- 「モバイル市場の競争環境に関する研究会」最終報告書(2020年2月)を踏まえた接続料研究会での検証の結果、4G・5G一体接続料について、一定の合理性が認められている
- 当時の検討において、MVNOの経営に大きな影響を及ぼさない整理が図られた

● 接続料の算定等に関する研究会 第四次報告書(2020年9月)

モバイル研究会最終報告書で指摘されたとおり、5G導入当初におけるデータ伝送交換機能に係る接続料については、4Gに係る接続料と5Gに係る接続料を一体として設定することについて、一定の合理性が認められる。

一方で、4G・5G一体接続料については、4G単独接続料と比べて、その水準が相当程度高額となり、MVNOの経営に大きな影響を及ぼすことが懸念されたが、二種指定事業者から提供された情報を検証すると、各社とも、5Gサービス開始当初、4G・5G一体接続料の水準は4G単独接続料の水準を上回るものの、その差は小さく、数年後には逆転する見込みであり、MVNOの経営に大きな影響を及ぼすとまでは言えないと考えられる。

5G(SA方式)に係る費用及び需要の推移 ※大胆な推計

- データ接続料について、4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)の契約数比等を用いて費用を按分した結果、**5G(SA方式)に係る費用は一定程度存在**

構成員限り

5G(SA方式)に係る接続料算定に関する当社の考え

- 当社は、音声接続料及びデータ接続料について、4G・5G(NSA方式)及び5G(SA方式)を一体として算定
- 4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)は、一般的な利用者のユーザ体感に大きな差異はなく、利用者からみたサービスの連続性がある
- 新たな機能提供に際しては、先行して設備投資が必要となる一方で、初期需要は小さいことから、当該機能に係る接続料を単独で設定した場合、その水準が高額になるリスクあり
- 実際に、4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)のそれぞれについて、費用及び需要を大胆に推計した結果、5G(SA方式)に係る接続料が高額になると想定
- MNOとMVNOの同時期提供やMVNOを含めた5G(SA方式)の利用促進を図るため、導入当初の利用を容易にすることが適当

4G・5G(NSA方式)及び5G(SA方式)に係る接続料を一体として算定することが適当

1

5G(SA方式)に係る費用及び需要の扱い

2

予測値算定方法精緻化及びMVNOへの情報開示

3

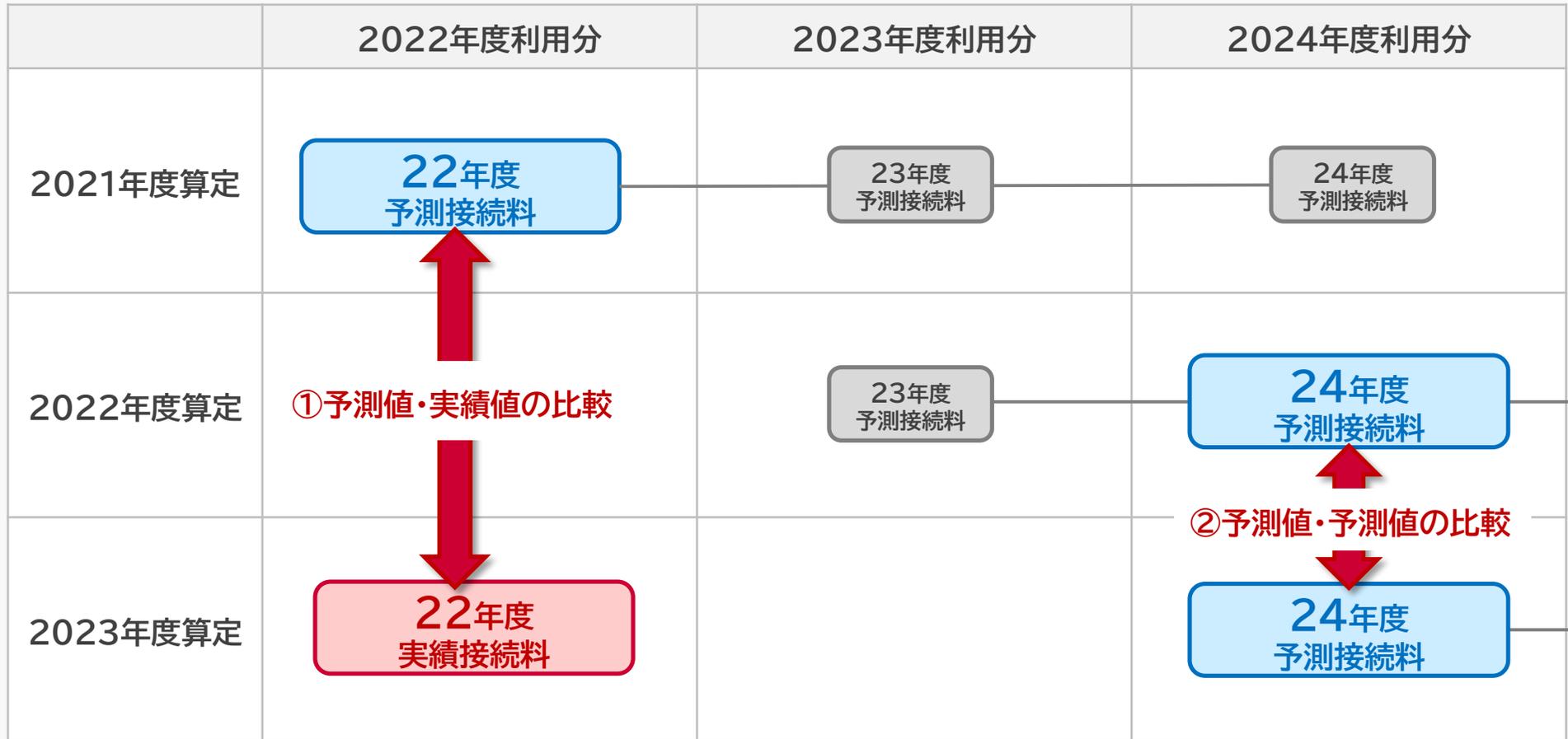
需要の適正性確保

4

各論点に対する当社意見

予測接続料について

- 予測接続料は2019年度より導入され、毎年度算定の精緻化に努めているところ、予測値との差異について、①②それぞれ比較する



① 予測値・実績値の比較

- 2020年度算定から、トレンドではなく見込みを用いた算定を採用したことで、予測値と実績値の差異は僅少となっている

	予測値 (21年度算定)	22年度実績値	差異 (21年度算定・22年度実績)
	構成員限り		
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			
接続料単価 (万円/10Mbps・月)	20.3	19.9	僅少 ▲1.7%

②予測値と予測値の比較

構成員限り

- 2023年度算定は、前回と比較して、
すると見込む

	23年度予測 (今回)			22年度予測 (前回)			増減率	
	24年度	25年度	26年度	23年度	24年度	25年度	24年度	25年度
原価 (億円)	構成員限り							
利潤 (億円)								
需要 (Gbps)								
接続料単価 (万円/10Mbps・月)	12.8	10.8	10.7	15.6	13.0	11.2	▲1.7%	▲3.4%

MVNOへの情報開示

- 当社は、これまでもMVNOへの積極的な情報提供を実施してきたところ
- 今回は、精算接続料の届出後速やかに予測値と実績値の差異に関する情報提供を行い、**MVNOの理解促進に努める**とともに、値上げとなる接続料の理由を**追加的に情報提供**

	12月	1月	2月	3月	4月
届出	★精算接続料		★予測接続料		★実績原価接続料等
情報開示		<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> 予測値と実績値の 差異の理由を開示 </div>	タイムリーな情報提供		<div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"> 予測値と実績値の 差異の理由を開示 </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"> 予測値と予測値の 差異の理由を開示 </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"> 見込みの考え方を開示 </div> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold; margin: 5px 0;">+</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> 追加的な情報提供 値上げとなる実績原価 接続料の理由を開示 </div>

引き続き必要な情報提供に向けて真摯に取り組む考え

【参考】MVNOへの情報提供内容(予測接続料における見込みの考え方)

項目		構成員限り	予測に用いた算定方法に関する情報
回線容量単位	第二種指定 設備管理運営費		
	正味固定 資産価額		
	需要		

【参考】MVNOへの情報提供内容(予測値・実績値及び予測値・予測値の差異)

項目		接続料単価 (円/10Mbps)	差異 (B/A-1)	差異が生じた理由
予測値と実績値の差異	A	予測値 (2022年度利用分)	203,270	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> 構成員限り </div>
	B	実績値 (2022年度利用分)	199,799	
予測値と予測値の差異	A	前年度(2022年度)予測値 (2024年度利用分)	130,846	
	B	今年度(2023年度)予測値 (2024年度利用分)	128,625	

1

5G(SA方式)に係る費用及び需要の扱い

2

予測値算定方法精緻化及びMVNOへの情報開示

3

需要の適正性確保

4

各論点に対する当社意見

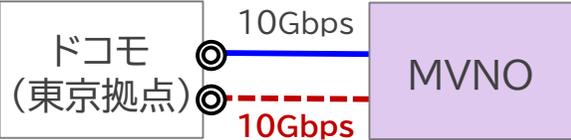
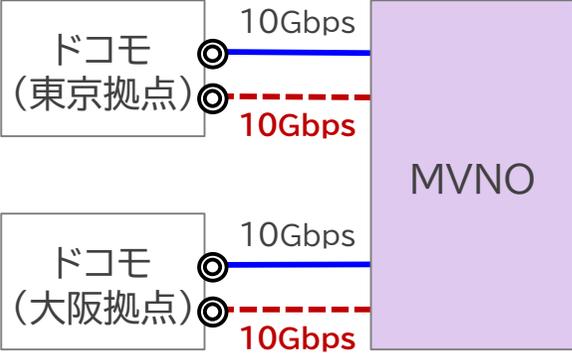
MVNOが冗長を確保する場合の取扱いについて

- 装置冗長は基本構成としており、回線容量単位接続料について、稼働帯域分のみの負担で冗長系の設備を利用することが可能(=冗長系帯域に係る接続料の支払いは不要)

構成員限り

— 稼働帯域 (課金対象)

- - - 冗長系帯域 (課金対象外)

	装置冗長 (基本)	拠点冗長	
		基本構成を別拠点に設置	構成員限り
構成		 <p>✓ トラフィック分散が可能 (ex.ラウンドロビン) ✓ 東京被災時にも、装置冗長を確保</p>	
契約帯域	10Gbps	10Gbps×2	
冗長系帯域	10Gbps	10Gbps×2	

1

5G(SA方式)に係る費用及び需要の扱い

2

予測値算定方法精緻化及びMVNOへの情報開示

3

需要の適正性確保

4

各論点に対する当社意見

予測算定方法の精緻化に向けた論点

カテゴリ	論点	当社意見
予測算定方法	<ul style="list-style-type: none"> □ 今後の「設備管理運営費」「正味固定資産価額」の予測値の算定に当たっては、費用配賦見直しに対応した予測となるよう、必要に応じて、算定方法を見直すことが適当ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 2023年度接続会計より費用配賦見直しが適用されるため、MNO3社において、昨年度のルール見直しが適切に反映されているかについて、接続会計の届出後速やかに検証いただきたいと考えます。
	<ul style="list-style-type: none"> □ 特に、「予測値と実績値の差異」が発生しているMNOにおいては、パラメータ設定の考え方を含め、予測値の算定方法について改めて検討することが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • P11でご説明の通り、当社は、2020年度算定からトレンドではなく見込みを用いた算定を採用したことで、予測値と実績値の差異は僅少となっております。
	<ul style="list-style-type: none"> □ 「予測値と実績値の差異」及び「予測値と予測値の差異」に関するMVNOへの情報開示については、今後も積極的な情報開示が必要であり、引き続きMNOによる情報開示状況を確認することが適当ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 当社は、差異が僅少である予測値と予測値の差異の理由も含めて、これまでもMVNOに対し積極的な情報提供を実施しております。 <p><値上げ要因の説明> 今回一部値上げとなった接続料(USIMカードの貸与に係る費用)について、情報開示で定められた事項に加えて、その要因を追加的に情報提供</p> <p><タイムリーな情報提供> 従来、4月に情報開示を行っていましたが、今回から、12月に精算接続料を届出した後、予測値と実績値の差異に係る情報を速やかに提供</p> <ul style="list-style-type: none"> • MVNOから追加の情報開示の要望はいただいておりませんが、引き続き必要な情報提供に向けて真摯に取り組む考えです。

原価の適正性確保に向けた論点

カテゴリ	論点	当社意見
原価	<ul style="list-style-type: none">□ 今回届出のあった接続料は、2022年度接続会計における費用の額を基礎として算定しており、費用配賦見直しは未適用であることから、ステップ1の音声伝送役務/データ伝送役務間の費用配賦に関しては、費用配賦見直しが適用される次回届出の際に、改めて検証することが適当ではないか。	<ul style="list-style-type: none">• 2023年度接続会計より費用配賦見直しが適用されるため、MNO3社において、昨年度のルール見直しが適切に反映されているかについて、接続会計の届出後速やかに検証いただきたいと考えます。
	<ul style="list-style-type: none">□ ステップ2・3については、引き続き毎年度の届出において各社の考え方及び配賦・抽出の状況を確認し、一貫性が担保されていることを確認することが適当ではないか。	<ul style="list-style-type: none">• 費用配賦見直しの結果、ステップ2・3における算定にも影響が出る可能性があるため、費用配賦見直しを踏まえた検証を行う必要があると考えます。

利潤の精緻化に向けた論点

カテゴリ	論点	当社意見
利潤	<p>□ 「投資その他資産」及び「貯蔵品」は、今後もレートベース全体に占める割合の変化を観測し、一定の割合を超過した場合には予測の対象への追加を検討することが適当ではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「投資その他資産」及び「貯蔵品」の2項目について、当社のレートベースに占める割合は以下の通りです。 <p><2024年度適用の予測接続料> 【回線容量単位】 構成員限り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資その他資産: ・貯蔵品 : <ul style="list-style-type: none"> 当社においては、レートベースに占める割合は僅少であることから、予測接続料に与える影響は軽微であると考えます。
	<p>□ 正味固定資産価額比の算出については、費用配賦見直しが適用される次回届出の際に、改めて検証することが適当ではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2023年度接続会計より費用配賦見直しが適用されるため、MNO3社において、昨年度のルール見直しが適切に反映されているかについて、接続会計の届出後速やかに検証いただきたいと考えます。

カテゴリ	論点	当社意見
需要	<ul style="list-style-type: none"> □ 各社の設備運用方針について、MVNOによる冗長設備の利用が可能である旨の記述があることは確認されたが、MVNOからは、MNOとMVNO間での冗長構成についての考え方や、接続料等のMVNOによる費用負担の適正性・公平性について、重点的な検証を行うことが要望されていることを踏まえれば、MVNOが要望する冗長構成(大規模災害時等に東京・大阪で拠点間冗長を組む)が利用可能なのか等について、MNOからMVNOに対し情報提供することが適当ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • MVNO各社の接続先や契約帯域の規模等に応じて、どのような冗長構成が望ましいかは異なるため、引き続きMVNO各社の要望に応じて対応する考えです。
	<ul style="list-style-type: none"> □ 各社の設備運用方針については、一貫性のある運用が行われているか、恣意的な運用がなされていないかについて、今後も引き続き確認することが適当ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今回の検証において、需要に係る適正性が確保されていることが確認されたと認識しております。 • 今後、設備運用方針等に変更が生じた場合には、その旨と理由を併せて説明する考えです。
	<ul style="list-style-type: none"> □ 各社の「原価と設備容量の関係」及び「冗長分も含めた設備容量と最繁忙時トラヒックの関係」について、今後も引き続き確認し、他社に比べて著しく設備容量が過大であると考えられる社が現れた場合については、設備容量の設定方法について確認する等の措置が必要ではないか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> □ 設備運用方針に追加的に記載すべき事項があるか。 	